



何度も紹介しているように、食事の変化で顎は小さくなってきている。昔は使われていた智歯<sup>ちし</sup>はおやしらず<sup>し</sup>は生える場所を失い、ネガティブな現象を引き起こす。



智歯がしっかりと生えないため、周囲の歯肉が腫れて痛む智歯周囲炎。本来は外に出ている歯冠部が埋まっているため、ポケットが形成され、細菌による炎症が起こる。歯ブラシが届きにくく、歯周病も起きやすい。まれに骨の中に嚢胞<sup>なんそう</sup>という袋をつくり、骨が

## 早く抜いた方が楽

□□ 37 □□

大きく欠損する病変もできるが、症状が出ないことも多い。ほとんどは歯科でよく撮るパノラマレントゲンで発見できる。智歯は多くが内向きに傾いていて、生えてくる力も意外と強く、ひとつ手前の歯を押ししてしまう。そのため、かみ合わせに影響を与え、顎関節症の原因ともなる。これもパノラマレントゲン写真の比較でわかる。

智歯が中途半端に生えると食物が詰まり、虫歯の原因ともなる。だから智歯はないほうが良いことがほとんどだ。ではいつ抜くか。私は治療力などの面でも、早いほうが良いと考える。若いうちの智歯の抜歯は、歯科医師にとっても患者さんにとっても楽なのである。

余談だがパノラマレントゲンは撮影範囲が広く口腔内の全体的な病変の発見に役立っている。放射線量は従来の数分の一まで進歩している。